

四国ブロック クラブネットワークアクション 2015 開催報告

日時：[第1日目] 平成27年11月7日(土) 13:00~18:00

[第2日目] 平成27年11月8日(日) 9:00~12:00

会場：鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール

内容：

[1日目]

①基調講演 「生活スポーツで紡ぐコミュニティ・デザイン」

講師：佐藤 充宏 氏(徳島大学大学院教授)

②プログラム体験

ア. カローリング 指導：徳島県 NPO法人あいずみスポーツクラブ

イ. キンボール 指導：香川県 香南ししまるスポーツクラブ

※全体を2グループに分け、30分ずつ体験

③プログラム実践報告 (パネルディスカッション)

ア. コーディネーター：実行委員会副委員長 齊藤 栄嗣 氏

イ. 発表者：

□徳島県 NPO法人 あいずみスポーツクラブ クラブマネジャー 住田 瑞子 氏

□高知県 NPO法人 まほろばクラブ南国 理事長 武市 光徳 氏

□愛媛県 NPO法人 今治しまなみスポーツクラブ クラブマネジャー 伊賀上 哲旭 氏

□香川県 香南ししまるスポーツクラブ キンボールスポーツ運営委員 辻 貴雄 氏

※各クラブから発表後、会場との質疑応答とまとめ

[2日目]

①グループディスカッション 「地域との連携において、総合型地域スポーツクラブが果たす役割」

ア. コーディネーター：実行委員会副委員長 齊藤 栄嗣 氏

イ. 事例発表：徳島県 NPO法人K-Friends 副理事長 秋成 ふみよ 氏

※事例発表後、4グループに分かれ、テーマに沿った意見交換と発表

②日本体育協会からの情報提供

説明：石黒 考明 氏(日本体育協会クラブ育成課係長)

【概要】

総合型地域スポーツクラブの運営力の向上に資するため、四国ブロック内における総合型地域スポーツクラブが取り組む「集客プログラム」を体験するとともに、各県からの実践報告を今後の参考とした。

また、各種団体との連携を強化していくためには、総合型地域スポーツクラブが、地域においてどのような役割を果たす必要があるのか意見交換を行い、クラブ関係者が抱える諸課題を明らかにし、課題解決のための情報の共有化を図るとともに、四国4県連絡協議会の連携と協力体制の強化を図った。



【内容】

【1日目】

【基調講演について（概要）】

- ・文部科学省の「総合型クラブ実態調査」において、総合型クラブの課題の上位は、会員確保、財源確保、指導者の確保で、ここ数年変わっていない。
- ・同じ地域に住んでいるだけでは、繋がりは生まれない。「共有」の場をつくることが重要である。
- ・総合型クラブにキーマンは必要不可欠だが、将来的にはクラブ自身がキーマンを生み出せるように。
- ・山形県のサッカー少年団では、保護者を拡大した「ファミリークラブ」を独自に設立。団員の兄弟、保護者等が所属し、フットサルやソフトバレーボールなどを自主的に楽しんでいる。
- ・電通は、「スポリユーション」を立ち上げ、平成27年4月に「世界ゆるスポーツ協会」を設立した。
- ・2021年「関西ワールドマスターズゲームズ」開催にあたり、組織委員会を構成する12府県政令都市を対象に開催希望調査が行われ、徳島県は、10競技を希望している。
- ・総合型クラブで大切なのは、多種多様な地域住民を集め、そこに新たな交流を生み出すことである。

【プログラム体験について】

体育館を2面に分け、カローリングとキンボールを30分交代で参加者に体験してもらった。

NPO法人あいずみスポーツクラブによるカローリングは、ミズノ株式会社所属の指導者の協力により、ルール説明や四国4県のカローリング普及状況等の情報提供も行われ、参加者も参考になったようである。

香南ししまるスポーツクラブによるキンボールは、ボールを使用したじゃんけんゲーム等のリードアップから入り、3チームに分かれてのゲームまで行った。初めて体験した参加者もあった。

最初は参加者も緊張していたが、次第に夢中になり、楽しい時間となった。



【プログラム実践報告 パネルディスカッションについて】

コーディネーター齊藤氏により、各県から「集客プログラム」をテーマに実践報告を行い、参加者との質疑応答を行った。

□徳島県 NPO法人 あいずみスポーツクラブ クラブマネジャー 住田 瑞子 氏

クラブ会員は男性：女性＝1：2の割合であり、町民男女比と逆転している。藍住町民体育館内トレーニング施設の業務を受託している。拠点の藍住町体育センターの稼働率が高い。教室ではヨガやキッズダンスが人気。テニス教室でAEDを使用する状況になったが、定期的にAED講習会を開催している成果により、指導者が迅速かつ適切に対応ができた。

□高知県 NPO法人 まほろばクラブ南国 理事長 武市 光徳 氏

南国市の人口48,000人のうち、13,000人が高齢者で、高齢化が進行中である。会員数は1,100人で、100人程度がラージボール卓球を目的としている。毎朝9時

57分に全サークル員がそろって「ご当地ラジオ体操」を行っている。

□愛媛県 NPO法人 今治しまなみスポーツクラブ クラブマネージャー伊賀上 哲旭 氏
チアリーディング教室がクラブで人気の高い教室。県外大学で指導していた講師が今治市に帰ってくることになり、その講師の希望により教室を開設した。小学生を対象にした体験会から通年の教室へ発展した。今年4月に、日本チアリーディング協会にチーム登録を行った。

□香川県 香南ししまるスポーツクラブ キンボールスポーツ運営委員 辻 貴雄 氏
クラブ会長と兄に誘われキンボールをはじめ、小学校PTA会長と市PTA本部役員への就任をきっかけに、キンボールの普及活動を始めた。メジャー競技に比べて競技人口が非常に少ないため、全国大会等への出場が可能であるなどの説得により、参加者を勧誘していった。

最後に、齊藤コーディネーターが、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後に総合型クラブが「生活スポーツ」の担い手となるよう、お互いに積極的な情報交換を行い切磋琢磨しよう。とまとめられた。



[2日目]

【グループディスカッションについて】

□テーマ「地域との連携において、総合型地域スポーツクラブが果たす役割」

□事例発表 徳島県 NPO法人 K-Friends 副理事長 秋成 ふみよ 氏

「地域と連携したクラブ活動と人材育成」をテーマとして、勝浦町の紹介を行い、阿波勝浦ビッグひな祭りを活用したスポーツツーリズムや町からの委託事業である婚活イベント、どろたんぼソフトバレーボール等の主催イベント、クラブ紹介の後、吃音が原因で不登校となった中学生が総合型クラブの活動を通じて成長していった事例の紹介があった。

総合型クラブの果たす役割として、学校以外での居場所作りが重要である。

□グループディスカッション

参加者を4グループに分け、参加者が各クラブの現状と課題を発表した後、テーマについて話し合った。主な意見は次のとおり。

行政や会員との連携においてはコミュニケーションが必須であり、団体との連携を図る前に、地域に関わりたいという人を増やすことが重要である。学校との連携においては、既存施設の有効活用を図りながら連携することが必要である。10年、20年と持続可能な総合型地域スポーツクラブを作るためには、将来計画を持ち、地域連携のために必要な人と人との繋がりをつくりながら活動していくことが求められる。



最後に、齊藤コーディネーターが、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会後の地域スポーツ社会について真剣に考えるべき時期である。総合型クラブの次の発展のためには、現場の頑張りだけでは限界があり、メディアによるPRは欠かせない。」等と話し参加者の賛同を得た。

【まとめ】

◆開催の成果と効果

四国4県の総合型地域スポーツクラブが一同に集まり、年1回の研修会を行って、ひとつのテーマを議論し合い、皆がそのことを共有していくことに意義がある。

皆が何かをつかみ、現場に持ち帰って、次なる明日に向かってクラブが地域社会とひとつになって成長していきたいと考えている。

◆今後の展望と課題

もう少しクラブの人たちが、より多く研修会に出席するために何をすればいいか、もう少しテーマを絞って考え直さないといけない時期になってきている。このままでは、多くのクラブの人の賛同が得られず、集まりが縮小化、又は廃止していくように思われる。

今回は、参加申し込みがWEB方式に限ったばかりに参加者が少なくなったような原因も考えられる。

また、前述したようにテーマももっと「今、クラブに何が必要か?」、「どんなことを望んでいるのか?」等の現状把握をするべきかと思われるし、四国では2年連続で同じ県が開催することとなり、その利点を生かしたプログラムの実施や計画が必要であると考えられる。

この四国クラブネットワークアクションが盛大に催され、来て良かった、何かひとつクラブのために持って帰れたと言われるようにしたい。